

第1回 懇談会の概要

第1回四国21世紀の道ビジョン懇談会が18日(火)高松市内で開催された。今回は初回であり、懇談会の位置づけの承認と座長指名(愛媛大学柏谷教授)の後「道ビジョン」策定のための現状の認識・基本的な考え方等について下記のご意見を頂いた。

『主な意見』

現状・課題に関わる意見

- ・四国は魅力があるにも関わらず、全国的に知られていない
- ・本四架橋や高速道路により便利になった反面、都会への買い物客の流出や宿泊客の減少等整備の恩恵を受けていないのが実感
- ・中山間地では道路が未整備なため、最低限の生活が確保されていない併せて、観光資源が活かし切れていない
- ・道路整備により四国内での地域間格差が拡大した

道づくりの施策に関わる意見

安心

- ・集落や環境保全のための最小限の交通条件が必要
- ・高速道路の暫定2車線は危険・ストレスを感じる 早期の4車線化を
- ・安心して歩けるよう歩道、自転車道と車道との動線分離と段差解消、照明等の整備を
- ・高齢化先進地の四国でのバリアフリーの導入

活力

- ・高速道路の活用策として、パークアンドバスライドなど、利用者の視点での利便性の高い交通結節点整備を
- ・空港間を機能補完できるような広域高速ネット整備を
- ・物流コスト低減や環境保全のために海運へのモーダルシフト
- ・高齢者に利用しやすい公共交通機関整備を
- ・バスロケーションやICカードなどIT活用による利便性向上を

魅力

- ・歴史的根拠に基づく遍路道ルートを生かす整備を
- ・歩行者にわかりやすい案内標識整備を
- ・電線類の地中化を

道づくりの進め方、工夫に関わる意見

- ・TDM等ソフト施策による既存施設の有効活用を
- ・四国独自の工夫には、道路管理者のみでなく公安委員会等他機関とも連携した取り組みを

- ・「四国基準」は「四国らしい」はよいが「我慢しろ」では困る
- ・これからは「できるもの」と「できないもの」の見極めが必要
- ・コスト縮減の面で1.5車線の整備は有効な施策
- ・社会実験でのモニタリングや事例の評価をしっかりと行うべき
- ・日本の骨格となる社会基盤(本四架橋等)は、長いスパンで効果の評価をすべき(評価指標は交通量だけでなく、安心等も含めて)
- ・「安心」「活力」「魅力」のどれを優先するかを示す必要があるのでは
- ・財源に見合った投資のため、事業費の大きな高速道路等の整備から生活道路や環境保全型の道路整備への転換を
- ・交通機関としての自転車の位置づけを明確に
- ・行政へ頼らない気持ちの必要性や使う側のマナー向上も盛り込んで欲しい